

# 火山観測体制の現状

全国110の活火山のうち、主要な火山について、気象庁、大学、関係研究機関等が監視あるいは研究のための観測機器を設置。このうち、気象庁（火山噴火予知連絡会）において、常時監視・観測する50火山を選定。  
また、学術的観点から、大学（43火山）、防災科学技術研究所（16火山）が観測機器を設置。

●: 大学（43火山） □囲みは研究者が常駐している観測所がある火山

▲: 気象庁（50火山：24時間体制で常時監視）

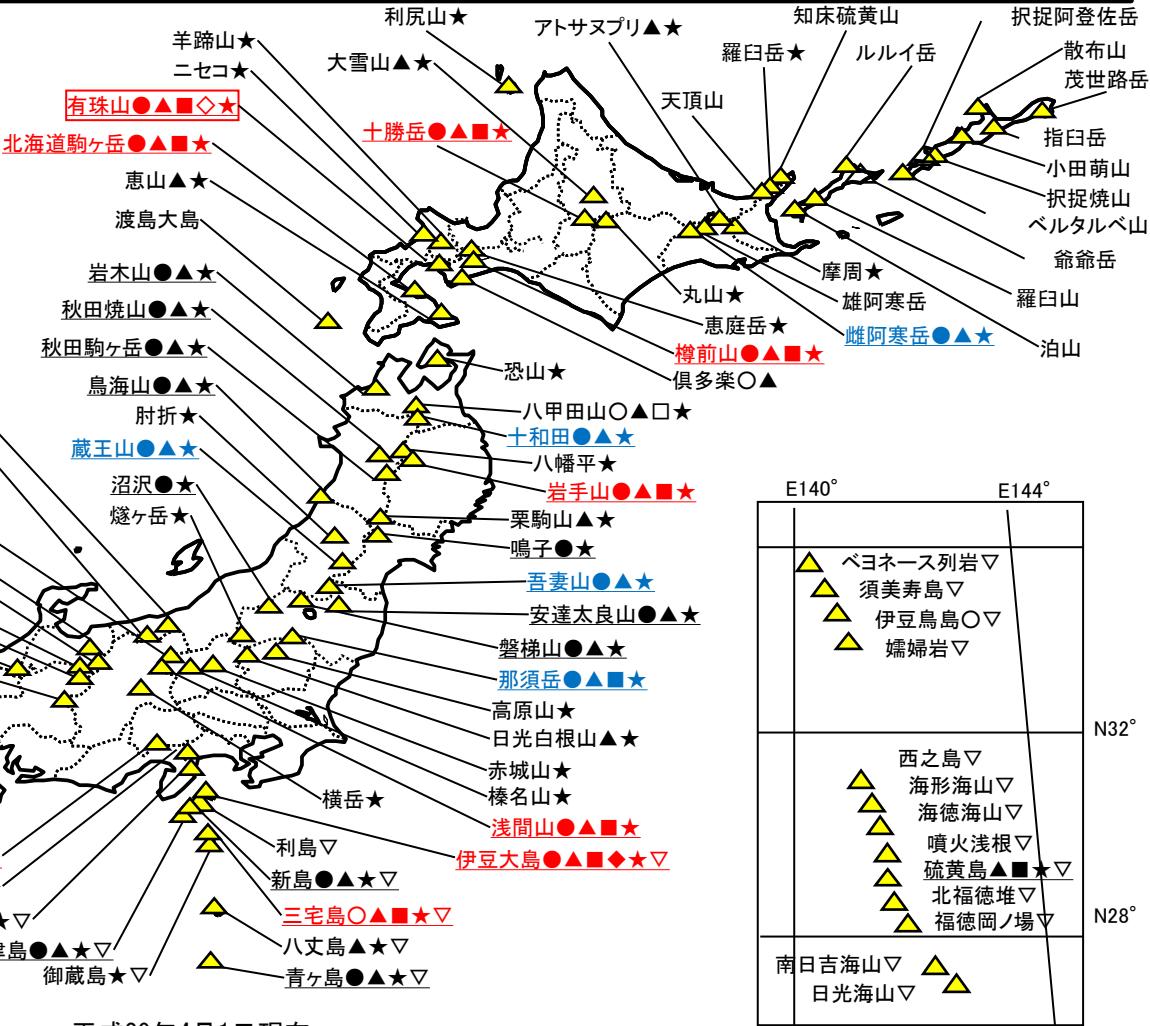
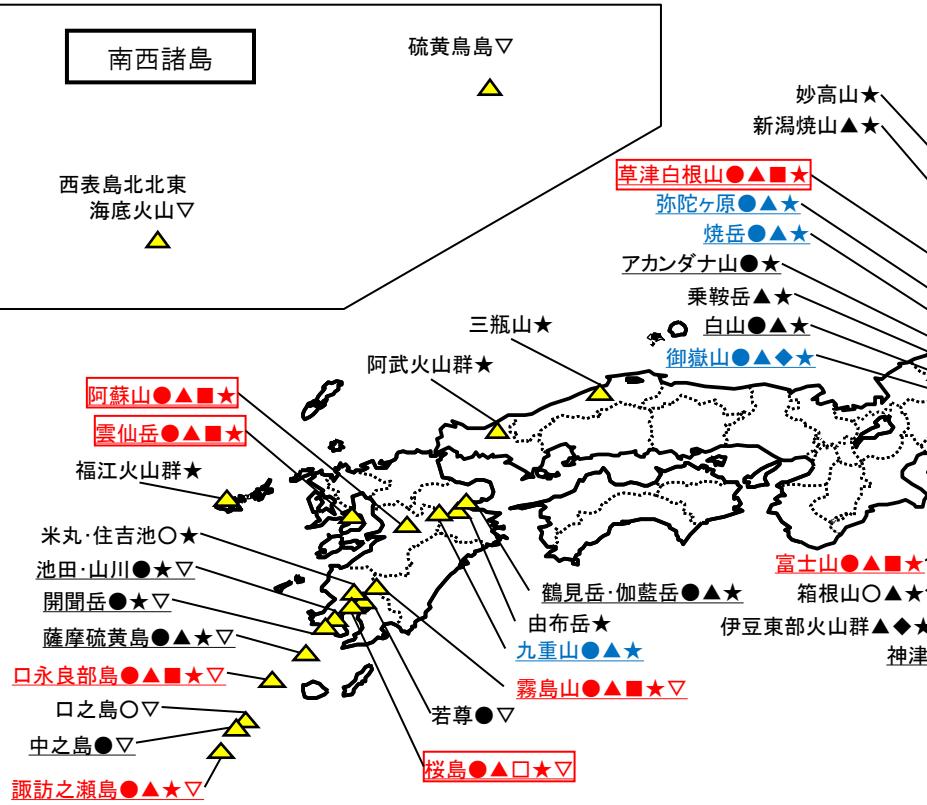
■: 防災科学技術研究所（16火山）

◆: 産業技術総合研究所（3火山）

★: 国土地理院（71火山）

▼: 海上保安庁（臨時のみ）

※各機関とも黒塗り記号は常時観測点、  
白抜き記号は臨時観測点を表す



平成29年4月1日現在

下線は大学または防災科学技術研究所が観測する45火山

赤字は平成20年12月の測地学分科会火山部会において重点的な研究対象とされた16火山

青字は平成26年11月の地震火山部会決定において新たに重点観測研究対象とされた9火山

※これ以外に、情報通信研究機構が20火山について航空機による臨時観測を実施

※新島、神津島、青ヶ島の大学常時観測点は私立大学によるもの